


評価対象年度	平成25年度	<h1>施策評価シート</h1>	政策	6	施策	14
施策名			14	家庭・地域・学校の協働による子どもの健全な育成		施策担当 部局
「宮城の将来ビジョン」における体系	政策名	6	子どもを生き育てやすい環境づくり		評価担当 部局 (作成担当 課室)	教育庁 (生涯学習課)

施策の目的 (目標とする宮城の姿)	○ 家庭・地域・学校がそれぞれ果たすべき役割を認識し、協働することで、家庭、地域における子どもの教育力が向上しており、子どもが基本的な生活習慣や「生きる力」を身につけている。 ○ NPOなどの多様な主体による、学校活動、子育て、さらには公民館事業などへの参画が進み、幅広いネットワークを生かした子どもにやさしい地域づくりが進められている。 ○ 地域社会での様々な体験や家庭、地域と学校とが協働した教育活動を通じて、子どもが社会性・人間性に富み、健やかに成長できる環境が整っている。	
施策の方向 (「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画」の行動方針)	◇ 家庭、地域と学校との協働により、子どもの基本的な生活習慣の定着に向けた運動を展開する。 ◇ 子どもの活動拠点づくりや地域で子どもを教えるシステムなど、教育に対する地域全体での支え合いを推進する組織体制の確立を進める。 ◇ 家庭、地域と学校の協働により、多くの住民が主体的に参画した子どもの多様な学習・体験機会の創出を図る。 ◇ 学校・企業・NPOなど、地域における関係機関と主体的に連携した多様な教育活動等の促進を進める。	

決算(見込)額 (千円)	年度	平成23年度 (決算額)	平成24年度 (決算額)	平成25年度 (決算(見込)額)
	県事業費	36,656	107,166	200,498

※決算(見込)額は「宮城の将来ビジョン推進事業」と「取組に関連する宮城県震災復興推進事業」の合計額(再掲分含む)

目標指標等	■達成度 A:「目標値を達成している」(達成率 100%以上) B:「目標値を達成しておらず、達成率が80%以上100%未満」 C:「目標値を達成しておらず、達成率が80%未満」 N:「実績値が把握できない等の理由で、判定できない」 ■達成率(%) フロー型の指標: 実績値/目標値 ストック型の指標: (実績値-初期値)/(目標値-初期値) 目標値を下回ることを目標とする指標: (初期値-実績値)/(初期値-目標値)	初期値 (指標測定年度)	目標値 (指標測定年度)	実績値 (指標測定年度)	達成度 達成率	計画期間目標値 (指標測定年度)	
	1	朝食を欠食する児童の割合(小学6年生)(%)	3.7% (平成20年度)	2.0% (平成25年度)	3.3% (平成25年度)	C 23.5%	2.0% (平成25年度)
	2	学校と地域が協働した教育活動(学社融合事業)に取り組む小・中学校の割合(%)	61.3% (平成20年度)	93.6% (平成25年度)	94.0% (平成25年度)	A 100.4%	93.6% (平成25年度)

■ 施策評価（原案）	やや遅れている
-------------------	----------------

評価の理由	
目標指標等	<ul style="list-style-type: none"> ・「朝食を欠食する児童の割合」については、ライフスタイルの多様化や生活環境の夜型化などにより子どもを取り巻く環境が大きく変化していることなどもあり、達成率が23.5%となったため、達成度を「C」と評価した。ただし、平成25年度において本県の欠食率は全国平均より低く、初期値からの改善も図られている。 ・「学校と地域が協働した教育活動(学社融合事業)に取り組む小・中学校の割合」については、中学校での取組が増加したことから、達成率が100.4%となったため、達成度を「A」と評価した。
県民意識	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年県民意識調査について、類似する取組である震災復興の政策6施策2「家庭・地域の教育力の再構築」の調査結果を参照すると、高重視群77.3%、満足群が42.4%、満足度の「分からない」は37.4%となっている。平成24年度の県民意識調査においても、それぞれ77.2%、40.7%、38.5%と同様な傾向が見られる。ある程度県民の関心が高いものの、満足度は低い。
社会経済情勢	<ul style="list-style-type: none"> ・生活様式の多様化や夜型化の進展は、子どもたちの生活習慣の乱れにつながり、学習意欲や気力、体力の減退など、子どもの健全な育成を阻害する要因にもなっている。また、核家族化の進展や地域コミュニティの希薄化等は、家族や地域の教育力の低下につながっている。 ・本県は震災により、家庭・地域・学校が大きな被害を受け、未だに子どもを育てる環境が十分に整っていない地域がある。特に
事業の成果等	<ul style="list-style-type: none"> ・企業・団体と連携し、子どもの基本的な生活習慣の定着に向けた運動などを展開し、一定の成果が出ており、概ね順調に推移していると考えられる。 ・地域全体で子どもを育てる体制や志教育の推進体制を図る事業についても、一定の成果が出ており、概ね順調に推移していると考えられる。 ・しかし、指標の「朝食を欠食する児童の割合」については、初期値からの改善が図られているものの、目標値を下回っている。 ・以上により、施策の目的である「家庭・地域・学校の協働による子どもの健全な育成」は、「やや遅れている」と判断する。

※ 評価の視点： 目標指標等、県民意識、社会経済情勢、事業の実績及び成果等から見て、施策に期待される成果を発現させることができたかという視点で、総合的に施策の成果を評価する。

施策を推進する上での課題と対応方針（原案）	
課題	対応方針
<ul style="list-style-type: none"> ・震災以降、子どもたちの生活リズムが一層不規則になることが懸念されるなか、子どもの基本的な生活習慣の定着促進を図るためには、個々の家庭の問題として見過ごすことなく、社会全体の問題として地域一丸となった取組が必要であるほか、家庭における自発的な取組を促すため、親自身の意識の醸成が必要である。 ・協働教育の効果を全県下に広げていくために、協働教育プラットフォーム事業の未実施市町への働きかけが必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの望ましい生活リズム確立に賛同する組織、団体、企業等を会員とする「みやぎっ子ルルブル推進会議」を通じて、「早寝・早起き・朝ご飯」といった子どもたちの基本的な生活習慣の定着促進に向け、企業との連携、マスメディアの活用等により、一層の普及啓発に取り組む。また、生活習慣の改善と関連して、学校における子どもの肥満対策に取り組む。 ・協働教育プラットフォーム事業の未実施市町(岩沼市、利府町、南三陸町)の教育委員会を訪問し、当該事業の取組について働きかける。

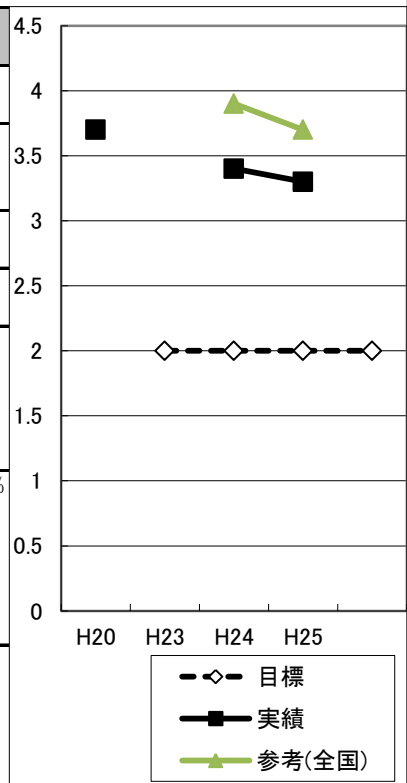
評価対象年度 平成25年度

政策 6 施策 14

目標指標等の状況

■達成率(%) フロー型の指標:実績値/目標値 ストック型の指標:(実績値-初期値)/(目標値-初期値)
 目標値を下回ることを目標とする指標:(初期値-実績値)/(初期値-目標値)

1	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
	朝食を欠食する児童の割合(小学6年生)(%) [目標値を下回ることを目標とする指標]	指標測定年度	H20	H23	H24	H25	-
		目標値	-	2.0	2.0	2.0	2.0
	全国学力・学習状況調査において、「朝食を毎日食べていない」と回答した児童(6年生)の割合	実績値	3.7	-	3.4	3.3	-
		達成率	-	-	17.6%	23.5%	-

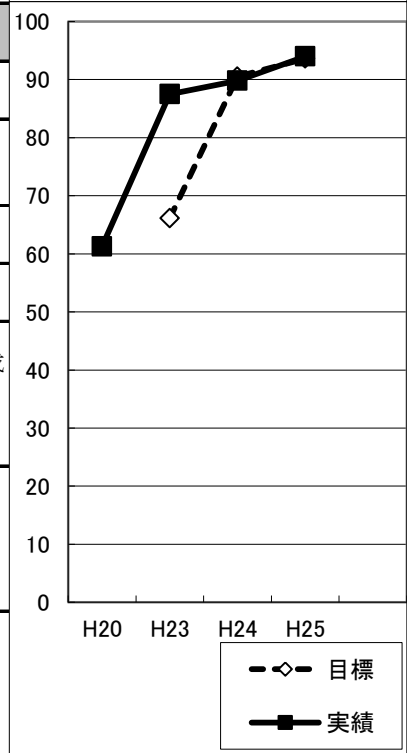


目標値の設定根拠
 ・平成17年度の実績値4.4%(出典:宮城県学力学習意識調査:小学5年生)を基準とし、この数値の概ね半分となる2.0%まで減少させることを目標とし、宮城の将来ビジョンの第1期(H19~H21)及び第2期行動計画(H22~H25)、並びに「宮城の将来ビジョン・震災復興実施計画[復旧期](H23~H25)」における目標値として設定したものを。

実績値の分析
 ・震災前の平成22年度調査では2.6%だった朝食の欠食率が、平成24年度は3.4%と悪化し、平成25年度では、3.3%と、少し改善をしている。
 ・これまで以上に、「はやね・はやおき・あさごはん推奨運動」及び基本的な生活習慣の定着に向けた普及啓発に取り組んでいく必要がある。
 ※平成23年度は東日本大震災の発生により全国学力・学習状況調査は中止となった。

全国平均値や近隣他県等との比較
 ・平成25年度調査の全国平均は3.7%であり、全国平均値より良い結果ではあるものの、隣県の状況は(岩手県2.4%, 福島県3.4%, 山形県2.9%)であり、岩手県・山形県よりも欠食率が高い状態となっている。

2	目標指標等名 (下段:説明)	評価対象年度	初期値	H23	H24	H25	H26
	学校と地域が協働した教育活動(学社融合事業)に取り組む小・中学校の割合(%) [フロー型の指標]	指標測定年度	H20	H23	H24	H25	-
		目標値	-	66.1	90.5	93.6	-
	市町村教育委員会に照会し、所管する学校での学校と地域による学社融合の実施割合	実績値	61.3	87.5	89.8	94.0	-
		達成率	-	132.4%	99.2%	100.4%	-



目標値の設定根拠
 ・宮城の将来ビジョン第2期行動計画で設定した目標値(平成25年度)70.2%を、平成23年度(398校/455校=87.5%)に達成したことから、新たな目標値として、平成23年度で未実施だった学校57校において、毎年小学校が7校、中学校が7校ずつ学社融合実施校が増加するものと予測し、平成25年度93.6%と設定した。

実績値の分析
 ・学社融合の実施割合は、平成25年度調査で目標値を上回る94.0%だった。文部科学省の委託事業(全額国庫負担)である「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」を活用し、市町村では安定的な財源の下、協働教育推進のための事業を積極的に実施したため、特に課題であった中学校での取組が増加した。

全国平均値や近隣他県等との比較
 -

評価対象年度	平成25年度
--------	--------

政策	6	施策	14
----	---	----	----

宮城の将来ビジョン推進事業

評価番号	事業番号	事業名	平成25年度 決算見込額 (千円)	事業の状況							
		事業主体等	特記事項	事業の分析結果				年度別決算(見込)額(千円)			
1	1	はやね・はやおき・あさごはん推奨運動	非予算的手法	事業概要 「はやね・はやおき・あさごはん」といった基本的な生活習慣の子どもへの定着に向けて、広く県民や家庭への普及活動を実施する。				平成25年度の実施状況・成果 ・子育て応援団すこやか2013へのブース出展 ・早寝早起き朝ごはん実行委員会in宮城との連携 ・庁内関係各課室との連携			
		教育庁	取組16に再掲	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	年度別決算(見込)額(千円)			
		教育企画室ほか		概ね妥当	ある程度成果があった	—	維持	H22	H23	H24	H25
2	2	基本的な生活習慣定着促進事業	34,096	事業概要 震災以降、子どもたちの生活リズムが一層不規則になることが懸念されており、規則正しい食習慣や外遊びなどの重要性がますます高まっていることから、みやぎっ子ルルブル推進会議の設立趣旨に賛同する企業・団体と連携し、社会総がかりで、幼児児童生徒の基本的な生活習慣の定着促進を図る。				平成25年度の実施状況・成果 ・みやぎっ子ルルブル推進会議総会の開催:参加者 121人 ・みやぎっ子ルルブル優良活動団体表彰:16団体 ・ルルブル通信発行:5回 ・新規訪問団体数:3団体 ・新規会員登録数:2団体			
		教育庁	取組15 再掲	①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	年度別決算(見込)額(千円)			
		教育企画室	震災復興6①⑤	妥当	成果があった	効率的	拡充	H22	H23	H24	H25
3	4	放課後子ども教室推進事業	68,683	事業概要 被災した地域の子どもたちに対し、放課後や週末等に安全・安心な学習活動拠点を設け、地域の方々の参画を得ながら子どもたちの成長を地域全体で支えていく仕組みづくりをする市町村に対して支援を行う。				平成25年度の実施状況・成果 ・実施(19市町村59教室) ・放課後児童クラブブロック研修会(4地区計54人参加) ・放課後子ども教室指導員等研修会(98人参加) ・実施市町村訪問(8月~12月) ・地域住民の参画を得ながら、学習活動や体験活動を積極的に展開することにより、地域の教育力の向上や活性化を図ることができた。			
		教育庁		①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	年度別決算(見込)額(千円)			
		生涯学習課	震災復興6②①	妥当	成果があった	効率的	維持	H22	H23	H24	H25

4	6	協働教育推進総合事業	78,760	事業概要		平成25年度の実施状況・成果					
				事業の分析結果		年度別決算(見込)額(千円)					
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				妥当	成果があった	効率的	維持	-	8,854	44,580	78,760
		教育庁 生涯学習課	取組15に再掲 震災復興 ※6②①01 ※6③①07	事業概要		平成25年度の実施状況・成果					
				事業の分析結果		年度別決算(見込)額(千円)					
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				妥当	成果があった	効率的	維持	-	8,854	44,580	78,760
		教育庁 義務教育課	取組15 再掲 震災復興 6①⑤	事業概要		平成25年度の実施状況・成果					
				事業の分析結果		年度別決算(見込)額(千円)					
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				妥当	成果があった	効率的	拡充	-	1,184	9,543	4,518
		教育庁 高等学校「志教育」推進事業	取組15 再掲 震災復興 6①⑤	事業概要		平成25年度の実施状況・成果					
				事業の分析結果		年度別決算(見込)額(千円)					
				①必要性	②有効性	③効率性	次年度の方向性	H22	H23	H24	H25
				妥当	成果があった	概ね効率的	維持	-	-	7,627	14,441
決算(見込)額計			200,498								
決算(見込)額計(再掲分除き)			147,443								

